



490.28
Ka-Z

✕
k 38

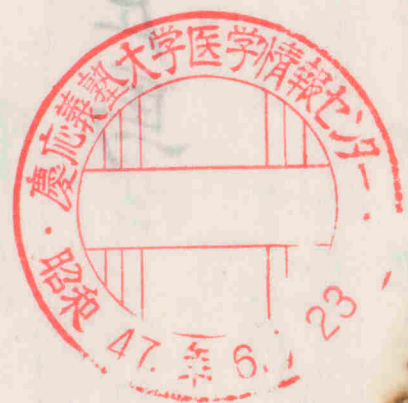
490,28
1K

11/0,2505
1A 1K 38

慶祐

寛永諸家系圖傳
平姓

割練士



富士川文庫

272

本草綱目
卷之六
方脈
氣血
春風
雨澤
草木
鳥獸
蟲魚
金石
土產
雜考

伯安

甫菴

永菴

了後

津輕左馬

宗印



寛永諸家系圖傳

平姓

熊谷

慶祐

在外種を業と凡又和氣春園軒

了了可以大方脈を因なる平

一歳より死に

壽山



文川堂

573

壽仙

洞菴

豐臣秀次此命了了也了了也
孝狀と號以

天正十一年二月十日法印了了
同十四年十月五日法印了了
天正年中豊臣秀吉了了福
財物了了了了了了了了了了

文祿四年

台徳院殿御腫物を患ひし中時侯某
を献し了了了了了了了了了了
貴金を給ふ

慶長年中依見了了在以了

大権現了了了了了了了了了了
了了了了了了了了了了了了

大権現了了了了了了了了了了
了了了了了了了了了了了了

以重

台徳院殿了 相福をへん 又嗣子あり

駿府小居しむくとなり

享七十六年三月 後陽成院御座

地をうきひふふ徳賢を城東町に

法業を献 屯少孫あり法平家あり

浮殿感ありそそ黄金并ふ法徳

此號を給ふそそ外科伊徳二巻を

撰し殿質了 備そそ海つる母も

宗祐

宸翰の外題を給ふ又そそ川前太府

叙しそそ伊徳よりしむ

同十九年十月八日了 死に年六十九

伯安 法橋 法眼

慶長八年四月廿三日 法橋より叙し

同十二年 瑞希をうけし由そそ法橋

より駿府よりを

大権現下はくをく海に

同十一年の月

大権現の腫物を針を刺して速に

治平愈あり

元永元年七月廿一日梅野河川に

東大寺村に在りて米地二石五條を

給ふ

同二年後伯成院法住持に時御筆を

献し治平愈あり

同年十月廿九日法眼下を叙し

同二年四月

右徳院殿に法眼物を針を刺して治平

愈あり

同年五月八日東福院法住持に

法上京に時候奉

寛永七年五月廿三日法住持を叙し

同年十一月十五日江戸に死す

慶傳

伯安 法橋 法眼

寛永元年十二月十七日 法橋より
同八月二十日

右徳院殿より

將軍家より 相福

同奉三日月朔日

右徳院殿より 時内樂を献

御平愈あり

同九月廿八日 又伯安より 米地并二日

俸より 水を 給ふ

將軍家より 金 白銀を 給ふ

同九年四月

將軍家より 光祿社 奉仕 供奉

同十一年六月

將軍家より 上流より 供奉

同七月

將軍家大坂へ渡御此時供奉

同九月

將軍家日光御社系此とき供奉

同十三年四月

將軍家日光御社系此供奉を法衣

同十五年十二月廿七日

將軍家此御席より法服と叙

同十七年四月

將軍家日光御社系此時供奉

同十八年九月

竹代君御胎前中屋時法付某を

献し法平念ある

伯元

宗傳

益安

滋野姓

望月

家傳不似之先祖位而淑詩歌
少是江海甲實郎小之川
位

重元

源大猷門尉生國近江甲賀郡

信長了法一人年八十五不律
死以法名道菴

宗慶

忠菴 生國同前

度長十三年外科の醫をもつて
台徳院殿了持福をなすお侍を
所切米をさすふささき法福祥
あるときは命をさすはを療をむ

元珎

大坂兩御陣了法上法日光社系
了供年しつふ年了死以

南菴 生國山城

度長十七年

將軍家了持福 近侍 了

了法所切米を所領を法上法系
了日光神社系了教度供を了

寛永十五年十二月法橋より叙
同十七年より外科の醫志一人
此をいふ敵中此處をいふ
む元珍も又その列とあるは是を
はとむ

道廣

永享元年國式院
寛永三年

將軍家より福見より是を海つては切
米をいふは敵中外科の醫の處
をいふ

日光師社条より供を

元廣

忠菴 生國日家

十一歳より父の家業をいふ

家の飯 九禮屋

藤原姓 河島

重行

平々丞 生國近江

筑前中納言 秀秋了 けり小亮

了 ちよひに 河井村の故里

隠居 七十九 年 病死 法名 如

重勝

喜平次 不後

ちのめは秀秋不後之越ありて
筑前をもち

其の心儀

其の心儀

大権現の歩卒とある寛永年 徳政と

あるは病不却に退利髪をそ

不後と名づく 外科をもつて業を

新泉

元和七年 ありて

台徳院殿より法之をそふ

寛永七年 年中九歳より病死

法名由真

不後

法橋

寛永七年

將軍家より法之をそふとて外科の

筆と殿中の番を侍とす

同十八年

竹千代君法以勝より法傳業を献し

法平愈々後跟子吳服を披録し

并り法切米をくちくを予ふ

同十九年

竹千代君山王御社参れども法揚し

叙し供育を侍とす

家の叙本礼

藤原姓

津輕

木氏と大河内方を清和天皇に苗裔し

之より源姓方より建康よりふりて津輕

氏よりあつて之より藤原の姓とす

其

兵庫 生國 河

以三

吉良氏より
遠方濱松の城より
討死

生國同家

三歳より
父より
道交より
志より
お科の醫術

系

新泉

彦次郎生五回家

増辨

権僧正

後河内蓮華院の僧
後より
後より

女子

女用

以春

生国同前

本真

お科をものつて北降美濃守ふつふ

生必同前

お科をものつて足付十郎ふたふ

建廣

左馬殿

お科は北降氏政ふたふ今大内

稱も津輕右京大夫の簪をもの

ふつふお科は津輕氏ふあふふ

お科は五月廿四日左馬殿ふ

お科の姓ふあふお科は丸をもの

ふお科の姓ふ

後ふお科を建ふお科の姓ふ

お科は後ふお科を建ふお科は

お科は後ふお科を建ふ

大権現ふあふお科は後ふお科は

浦の泉にあり

台徳院殿に詣りて法切米を

寺に下し

寛永十七年九月廿二日

七十七法名現安

建次

左門大寺惣生主武親江原

寛永四年

再々事立有様其後之御成程に

將軍家より指図し奉り下り

同十七年父に遺言を継は切米を承ふ

女子

以妻

生主同前

寛永十七年

將軍家より指し奉り下り

家の紋 牡丹の丸

突をよけし氏と一戦し麻伏鬼
をのけし氏と一戦し宝町家
片し一戦良時ふんふん麻伏
鬼を改し一戦し麻伏

盛興

麻伏鬼左京大夫 生馬場
靈均院我眼し片し
興元龜四長我眼宇治の真木島の

城下梢籠織田佐々木合戦の時
盛興志士一軍太きし片し
真木島没落しと浪人となりし
後突あ藝守盛佐し原に盛興
盛佐の一族をとりし片し

盛時

勝義 世国同家
突あ藝守盛佐同長川さつ政子

盛治

深之街 生国近江

松平下領を思ひつゝ

盛良

奥儀を新

刺髪

号に

生ふ

伊勢

関長門守一政下

享長年中一政勢あり龜山の城を

守あり伯父黒坂城より下つたとき

盛良これより下つたときを勢あり

と申す居りたり紀ありしとき

是盛良の親族お尋ね次第幸長を許

すあるをりつゝのゆゑある時

幸長の既死より奥孫を夫といふ

ものあり誤地より長盛良勢あり

すあるとき親族をあるとき

哲人可なりこれに師とて学事
三年彌々新その勉をこころする
事をこころし其を感良し
すくこれに鉄炮をもつて南紀
に名ありある時其を新にけり
いそ我既り老るをけり其に
毎く鉄炮り精きものを
しそ名氏を翻志免んとすゆ
その道をこころす其のついで

を翻志しとりこころす
麻伏免を改免とす
元和二季哲人あり其紀あり其免
を考りいふとて其田字ん
とすも其あり南紀流の免科ふ
精きものありとて其免は柳生
但馬守の許りありとて浪人や
なり其免はきり其感良し其を
師とて其免の免をうけ

利發しと家印と號に病り
りて治療をせしむるのやま
を釋に是を治るるを治る
も此あけそわきよるもの
寛永十八年十月
竹千代君御胎毒瘰癧のきぬけ科
を秋はいてをいふ家印め
きそ江戸に詣りて方へち
不入

竹千代君の胎氣をどうもひき
はつる

同十九年正月二日
將軍家御病

同月廿一日
薬を製し
ちひしき治平念ふに

將軍家御感收あり
同十九日月付
終ふ

同年二月八日 佐と家と法橋

初月 ね

竹千代君御 候者 知あ。 ね 下

翌日

竹千代君山王法社 衆の とき 候

候て 候者

同年四月朔日 牧野内道院 候者

つて 殿中 下 候者 とき 候

家 家 あり 候 下 候者 とき 候

宗悦

了 殿中 下 候者

同年十月 神田 あり 候て 宅を

と 候

童名 捨花 生 岡 和 泉

家の 飯 揚 和 泉

同年二月八日 佐と前と法橋
張の後 翁の如

竹千代石佛 藤家和尚の如く

蓮花堂 蓮王 蓮國 蓮如の如く

蓮如

蓮如の如く 蓮王の如く 蓮國の如く 蓮如の如く
蓮王の如く 蓮國の如く 蓮如の如く 蓮王の如く
蓮國の如く 蓮如の如く 蓮王の如く 蓮國の如く
蓮如の如く 蓮王の如く 蓮國の如く 蓮如の如く



